

保育には、本来、〇〇式保育というのがあるのではないと思う。

保育は、子ども自身の生活がつくられることを望みつつ、日、子どもと生活を共にしてゆく営みである。それをおいて、何か特別なプログラムを実施することではない。あたりまえの毎日の生活をおとなも子どもも深めてゆくところに、保育の向上がある。

保育における主義主張は、静かな声であって、世の中の勢力や権力とは無関係である。その普及も、外部の力に頼ってなし得られるものではないと思う。金銭の補助があればできるものでもないし、組織を作って運動を起こすことによつて盛んになるのではない。保育にたずさわる者、ひとりずつが、子どもとの交わりを深めてゆくことが、真の保育を生み出す源泉である。

○

幼稚園を訪問したとき、先生や子どもの動きを批判的に見るのではなくて、自分も楽しんでその幼稚園の全体の空気の中に身を浸してみると、その幼稚園の特色を感覚でとらえていることに気付くことがある。今月号の風に関する特集の中で森下みさ子さんがとらえているのはそれである。はじめて訪問した幼稚園で、衣裳のスカートをひらひらさせて舞う子ども、ブランコで揺れる動き、その影が地面に映り、また雨上りの濡れた園庭に反射する。こういうことに気付いて見ると、この幼稚園の二階にゆく階段の踊り場の大きな鏡は、訪問者の目をひかずにいないし、動きを反射する影はいたる所にある。普段、無意識のうちにとらえている感覚を、そのまま意識の層に浮かび上げることができると、発見できることである。こういう観察を試みたら、十園十色であらう

(津守)

## 幼児の教育 第七十九巻 第五号

五月号 © 定価二五〇円

昭和五十五年 四月二十五日 印刷  
昭和五十五年 五月 一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします